

令和4年度がスタートしました。今年度は2コース6フィールドによる新たな教育体制に加え、夏の校舎移転と、将来を見据えた新生龍谷構築の大きな節目の年となります。

その過程を出来る限りリアルタイムに伝えられるよう、校長室からも日頃の「雑感」を簡単に綴ってまいります。ご覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one. No.105

R5.1.7 「合唱部演奏会」

昨年大躍進を遂げた合唱部が、関係各位に感謝の気持ちを伝えることを第一の目的に、大雪クリスタルホールで「全道大会出場記念演奏会」を開催しました。

天候に恵まれたことありますが、コロナ対策を万全にした会場には、多くの保護者や関係者の皆様が足を運んでくれました。

校外での本格的な演奏会は初めての経験になりますが、25名の部員は終始素晴らしい歌声を会場に響かせ聴衆を魅了しました。



3部構成から成る演奏会の第一部は1・2年生新メンバーによる合唱曲を披露、第2部は楽しい趣向満載のステージ企画で会場を沸かしました、そして第3部では各種全道コンクールで発表した曲を、3年生を交えじっくりと聴かせてくれました。

聴衆は美しく張りのある歌声に魅了され、最後は割れんばかりの拍手に包まれました。

日々の研鑽を積み重ね、大きく成長した生徒の姿は自信に漲っています。今年は、さらなる高みを目指して頑張ってくれることでしょう。

One for all, All for one. No.106

R5.1.13 「出陣式」



14・15 両日の共通テストに向け、受験生を対象にした決起集会を前日に行いました。大学受験に係る進路指導に携わってきた先生方や担任団から、激励の言葉や諸注意を聞いた受験生の表情には、粘り強くやり抜こうとする決意が感じられました。

この3年間、個々の目標に向かって努力を積み重ねてきた姿は、職員誰もが目にしてきた光景です。存分に力を出し切って来てくれることを祈っています。

One for all, All for one. No.107

R5.1.14 「全道展で特選受賞！」

全国大会を含め数々の実績を収めてきた書道部の2名が、北海道学生書道展覧会で「特選」の栄誉に輝きました。

部長の2年生 折田 峰夏さんの作品は「魏霊蔵造像記」。造像記とは、仏像を作る際にその発願者、制作の由来等を仏像の傍らに刻したものを言います。特にこの魏霊蔵造像記

は国家の平安と安泰を願う内容を綴った力強い作風が特長です。折田さんは「数ある造像記の中でも書いていて一番じっくりくる古典です」と言います。また、「今年の抱負は、部としては皆が楽しく書ける環境づくりを目指すこと、個人としては近代詩文に挑戦してみたいです」と語ってくれました。

同じく2年生の石本 陸十君の作品は「開通褒斜道刻石」。後漢時代に凸凹な崖に直接彫りこんだものですが、内容は「褒斜道を開通した功績を称えたもの」と言われています。気宇雄大で無限の広がりを持ち、スケールの大きな字が緊密に絡み合っているのが特長です。「書道を始めたのは高校に入ってからですが、1年生の終わり頃に先輩が書いているのを見て、素朴で大きく、鋭い線にすっかり魅了されました」と、当時を振り返ります。



二人の力作は、10日～15日まで札幌の大丸藤井セントラルで展示されていました。実際の作品を是非とも間近で見たいものです。

One for all, All for one. No.108

R5.1.14 「幸先の良いスタートが切れました」

女子バレー部が新人大会地区予選会で見事優勝を果たしました。昨年3年生が引退し、部員数8名だけとなったチームが、意地を見せての全試合ストレート勝ちでした。



新キャプテンの2年生 岸 華唯来さんは、「このチームは身長がない分、日頃からサーブの正確性やジャンプ力を意識しながら練習してきました。その成果が、今回の試合で発揮できたと思います」と勝因を分析してくれました。同時に課題も見つかり、2月に岩見沢で開催される全道大会前までには、「迷うことなく積極的にボールを取りに行くレシーブの強化を図ります」と、明確な抱負を語ってくれました。

同じく2年生のバイスキャプテン 加藤 真那さんはエースとしてチームを引っ張ります。「言葉ではなく、自分のプレーや練習に臨む姿勢を通してチーム全体のレベルアップを図りたい」と、バレーボールに対する真摯な取組が共感を呼びます。また、「気づいたことをそのままにしておかず、全体で話し合えるチームにしていきたい」と、キャプテンを支える頼もしい存在となっています。

1年生ながら、もう一人のバイスキャプテンを務める 小迫 有花さんは、「この部は、1・2年生の隔たりを感じさせないアットホームで温かなチーム。今回バイスキャプテンになったことで、これまでの先輩方の言葉やプレーの意義を一つ一つ真剣に考えるようになりました。」と、言われたから「やる」ではなく、課題解決のために必要だから「やる」

という主体的な言動を心がけるようになったと言います。

次年度は多くの新入生が入部する予定とも聞いています。バレー部には強くなる要素ばかり感じているだけに、今後の活躍が楽しみでなりません。

One for all, All for one. No.109

R5.1.16 「御正忌報恩講」

冬季休業明けの全校集会に引き続き、「御正忌報恩講（ごしょうきほうおんこう）」を行いました。宗祖親鸞聖人のご命日にちなんで、仏様とのご縁に報恩感謝する法要の行事です。今回はコロナ対策により、放送での講話形式で執り行いました。

宗教教育を担当されている藤島教諭が、親鸞聖人の教えについてご講話くださいました。「行き先がわからなくなれば、一呼吸おいて考えてみましょう」「自分の本当の姿を確認して生活していきましょう」と親鸞上人は説かれます。自分の弱い心や誤った考えを自覚することで、自ずと進むべき道が開かれていくということでしょうか。

親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ大切な一日となりました。



One for all, All for one. No.110

R5.1.23 「バドミントンが熱い！」

強豪ひしめく支部大会を勝ち抜き、19日から帯広で開催された全道新人大会で、見事ベスト8を勝ち取った男子ダブルスと女子ダブルスの皆さんからお話を伺いました。

男子チームの副将を務める2年生 井上 晴道君は、「目標としていたベスト8を達成できたことは大きな成果。今後はトップレベルの選手を想定した実践練習を取り入れていきます」と、次の大会に向けた抱負を力強く語ってくれました。



ペアを組んだ1年生 澤田 琉聖君は、「緊張しましたが、高度な技術を持つ選手と直に試合をする中で、自分の課題を明確にできたことは大きな収穫です」と、1年生ながら向上心に燃える姿勢は流石です。

女子チームも負けていません。同じくベスト8に輝いた副将の2年生 齋藤 叶未さんは、「様々なプレッシャーの中で自分を出し切ることが出来ました。次の大会ではさらに上を目指します」と、今後の取組に益々意欲を見せます。

そんな齋藤先輩の優しく丁寧な指導を慕うペアの1年生 美濃輪 凜さんは、小学1年からバドミントンをはじめたそうです。「ラリーを勝ち取った時の喜びはバドミントンの醍醐味の一つ。どんな相手にも粘り強く守り抜く技術をさらに磨きます」と、頼もしい言葉が返ってきました。

素早い動きにも冷静さと迅速な判断力が要求されるバドミントン、本校でも注目の的になっています！

R5.1.31 「介護従業者養成研修」

3年生は、明日2月1日から家庭学習期間に入ります。既に進路が内定している皆さんは、社会人としての自覚や心構えを再確認する大切な時期でもあります。在学中にすべきことを明確にし、計画的かつ有意義な日々を送ってください。

また、受験を控えている皆さんは最後の追い込みです。なりふり構わず、目標達成に向け全力を出しきってくれることを期待しています。

そんな中、本校が力点を置くキャリア研究の一つ「全身性障がい者移動介護従業者養成研修」の修了証明書授与式を会議室にて執り行いました。

3年生22名が一年間真剣に取り組み、実践を通して福祉や介護について学んできた証です。

将来の職業に直結するかしないかは別として、キャリア研究での体験は様々な所で必ず生かされることでしょう。

